

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	くじらっこ		
○保護者評価実施期間	2024年10月10日		～ 2024年11月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・経験豊富で優良なスタッフが定着していること	・円滑なコミュニケーションと情報共有 ・常に今だけでなく「子どもたちの未来」を見据えた支援ができるスタッフの育成 ・スタッフそれぞれの考えや思いを大切に、実践することを意識し取り組んでいる。	・今いるスタッフたちが、やりがいを持ち楽しく仕事を続けていけるよう、現場の声をしっかりキャッチし、より良い職場環境をつくっていく。
2	・多岐にわたるサービス展開をしている法人の中で、放課後等デイサービス事業をおこなっていること	・他の事業(居宅介護等事業・生活介護事業・相談支援事業・共同生活援助事業)の方々から積極的に情報収集をおこなう、柔軟な視野と思考を育めるよう意識している。	・生活介護事業や共同生活援助事業の方と連携を図り、実際に見学にいたり体験する等の経験を積める取り組みができたなら、さらに充実していくのではないかと考える。
3	・利用施設の充実 事業所の目の前に多摩障害者スポーツセンターがあること	・夏休みはできる限りプール活動を組み込み、楽しく身体を動かしエネルギー発散ができるよう意識し取り組んでいる。	・曜日によって体育館も利用することができるので、今後はプールだけでなく体育館も利用するなど、活動の幅を広げていきたいと考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・他機関外部との繋がり、研修参加の充実が図れていないこと	・限られた人員で支援していることもあり、研修に参加しやすい環境を整えてあげられていない。	・人材の確保 ・会議や勉強会を通して学びたい気持ちや知りたいという気持ちをもってもらえるような機会を意識的につくる。
2	・地域施設を積極的に使用できていないこと	・地域施設の利用や、地域の方々との繋がりはとても大事だと考えていますが、ひとりひとりの障がい特性を考慮するとなかなか積極的に利用できないことが多くあります。また安全性の確保という面からも難しさを感じています。	・安全に楽しく施設を利用するには、相手側(施設側)の理解や協力も必要不可欠になると考えます。自分たちが利用できれば良いという一方的なものではないと考えますので、少しずつ私たちのことを知ってもらえるように、短い時間の利用やイベント・行事に参加することを重ねていけたらいいなと感じています。
3	・保護者同士が交流する場、機会の開催ができていないこと	・今回のようなアンケート項目や私たち(事業所側)の気持ちや考えだけでなく、保護者の皆様がどう感じているのか、どういった繋がり場を必要としているのかを把握することが大切だと感じています。	・2024年度に保護者同士の繋がり場を設けていくために、アンケート調査を実施しました。集計結果を基に、事業所本位ではなく保護者の皆様が求める繋がり場を見つけていきたいと思います。

## 公表

事業所名 社会福祉法人かいゆう くじらっこ

公表日 2024/12/2

利用児童数 20人

回収数

12

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	2				東京都の規定基準をきちんと満たしています。狭く感じる方もいらっしゃるかと思いますが、子どもたちの成長や活動に合わせ、活動を分ける等工夫し、子どもたちが過ごしやすい空間がつけられるよう務めています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11			1		配置についても規定基準を満たしています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	2				段差のないワンフロアで、解放感を感じる空間になっています。障害特性や個性にあわせ、個別の空間を要する場合は別室を使用し臨機応変に対応しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	2				清掃チェック表を使用し、誰がおこなっても清潔な空間を保てるよう意識しています。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1				経験豊富な児童指導員、介護福祉士、保育士が現場にはいっています。また100%の理解は難しいですが、どんな時も「理解したい・寄り添いたい」という気持ちをもって日々子ども達と向き合っています
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	2		1		遊びや集団生活の中から未来に繋がる力(育つ力)を応援することを掲げ、遊びの中から楽しく学ぶことを大切に支援計画・内容を立てさせていただいています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11	1				安心納得いただける個別支援計画書の作成ができるよう、支援計画を作成する際に個別面談を行わせていただいています。支援者側からの見解、保護者様の思いや考え、願いをしっかりとすり合わせ、子ども達の成長に添った支援計画書の作成ができるよう務めてまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	2		1		なるべく分かりやすく具体的な支援計画の作成に努めていますが、疑問点や不明な点があれば、いつでもご意見頂戴いただければと思います。よろしくお願いたします。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	1				個別支援計画書を基に、柔軟な支援・対応ができるよう務めてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1				固定化されない工夫はもちろんのこと、固定することが時には必要な場合もあると考えています。「その時その子に何が必要か」を常に考えながらプログラムや流れを考えてまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	5	3	3		児童館の利用については、子ども達の特性や集団での活動といった部分から積極的におこなえずにいますが、公園で遊ぶ際には、地域の子ども達と一緒に遊び楽しむことも大切にしています。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	1				契約時にご説明させていただいております。ご不明な点等がございましたら、その都度ご説明させていただきますので、いつでもお問い合わせください。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1				年2回(前期後期)の個別面談の際に、放課後等デイサービス計画(個別支援計画書)と一緒に振り返り、支援内容を含めご説明させていただいております。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	6	3	2		情報提供については、チラシ等をお配りさせていただくことをしておりますが、家族支援プログラムについては、現在ご提案させていただいておりません。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	10	2				引継ぎ・連絡帳・メール・電話それぞれのご家庭に合う形や方法で共通理解を深めているよう努力してまいります。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1				少しでもお力になれるよう日々学びを深めスキルアップしていけるようスタッフ一同精進してまいります。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1				楽しい事だけでなく、大変なことや辛い事、ともに共感しながら一緒に乗り越え、成長していきたいと考えております。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	6	4	1		今後、開催予定とされています。	こちらについては、2024年でアンケート調査を行い2025年から保護者同士の交流の機会を設けていけるよう進めてまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11						相談や申入れについては基本管理者が対応させていただいておりますが、その他にも市の相談窓口や東京都社会福祉協議会窓口、第三者委員(2名)を設置し、担当等連絡先を重要事項説明書に記載しています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1				連絡帳の使用が毎回で、その日どこに行った等の報告や本人のエピソードなどを聞きたいなと思います。	引継ぎや情報共有等、それぞれの保護者様にあった形・方法で対応させていただいております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	1	1			通信にたくさん写真をのせてくださるのうれしいのですが、老眼で写真が小さすぎてみえづらいです。もうちょっと大きいと嬉しいです。	子ども達の様子や活動イベントなどを発信させていただくツールとして2か月に1回のペースでくじらっご通信を発行させていただいております。今回のように、もう少し大きくしてほしい等、掲載についてご要望等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1					個人情報につきましては十二分注意しています。活動展や会報等の写真掲載につきましてもその都度、同意書を配布させていただき、了承いただいた方のみ使用させていただいております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	3		1			各種マニュアルについてはきちんと策定されています。訓練についても夏季は熱中症対策研修、冬季は感染症や嘔吐対応研修等をおこなっています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1					避難訓練につきましては、以前保護者の皆様からいただいたご意見を基に年に2回実施しています。またおやつ時間で非常食試食会を行い、実際に備蓄している非常食を子ども達が食べることができるのかということも確認をしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	1	1				子ども達の安全については、細心の注意を払っています。気になる点やご不安なことがありましたら、いつでもご相談ください。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1	1				とても大事なことだと考えます。できる限り迅速に対応できるよう取り組んでいますが、不十分な部分がありましたら申し訳ございません。信頼関係に大きく関わる部分でもありますので、今後も細やかかつ速やかに対応ができるよう、努めてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	1					ご利用いただくうえで、安心して通所いただくことはとても大切なことです。子どもたちにとって安心して過ごせる居場所であるよう、そして保護者の皆様にも安心して預けていただける事業所であるよう、スタッフ一同精進して参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	1					安心と同じくらい楽しく通うということは大切だと感じています。楽しく学び、楽しく積み上げていくことが大きな学び・成長に繋がっていくと感じますので、その根底「楽しさと安心」の土台をしっかり作り上げていきたいと思っております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1					20名の保護者様がいらしたら20通りの考えやお気持ちがあると感じています。子どもたち同様、できる限り保護者様にも寄り添い一緒に考えていける事業所でありたいと思っております。まだまだ未熟で足りない部分が多々あるかと思っております。今回のようにご意見をいただきながら、私たちスタッフも子どもたちと一緒に成長していきたいと思っておりますので、ぜひ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人かいゆう くじらっこ		公表日		2024 年 12 月 2 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		ワンフロアな空間なので、個々の特性を考えると足りていない部分もあるかもしれませんが、ある空間・スペースを工夫し、しっかり個々に向き合える環境や空間を作り、支援してくれていると感じています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		ワンフロアなので、見渡しやすく分かりやすい構造になっていると思います。また基本的に段差はなく、バリアフリー化されています。また、限られた空間ではありますが、少しでも圧迫感を感じない空間で過ごしてもらいたいと考えているので、ブラインドを常に上げ、開かれた状態・環境であるよう意識しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃チェック表を使用し、誰がおこなっても清潔な空間を保てるよう意識しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	ワンフロアな空間なので、個別の部屋はないが、その中で工夫をしながら個別対応できる環境を作ることができていると思います。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		会議での全体の振り返りだけでなく、スタッフひとりひとりと支援の確認や振り返りができるよう意識しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議等に限定せず、話せるタイミングでしっかり話し、意見や気持ちを聞かせてもらうよう意識しています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		会議等でそれぞれのスタッフの考えや学びたいことを探り、事業所勉強会を開催しています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		個別支援計画を作成するにあたり、年に2回前期後期と保護者様と個別面談をおこない、しっかりニーズや課題を把握させていただいて作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		個別面談週間が始まる前に、スタッフ会議を行い前個別支援目標の振り返り、現在の課題についてなどを話し合うようにしています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書ができ次第、観覧ファイルにまとめ、全スタッフに確認をしてもらっています。確認後にサインをもらい共有の漏れがないようにしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		事前アセスメントや日々の個別記録だけでなく、気になったこと等を引継ぎノートにも書き記し、確認共有できるよう努めています。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		放課後等デイサービスガイドラインのねらいや支援内容を踏まえることも意識していますが、一番は本人(児童)であることを忘れず、その子に必要な具体的支援内容を意識して作成・設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		固定化されない工夫はもちろんのこと、固定することが時には必要な場合もあると考えています。「その時その子に何が必要か」を常に考えながらプログラムや流れを考え支援しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		組み合わせてサービス計画を作成するのはもちろんのこと、子どもたちの成長や変化に合わせて臨機応変に対応・支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	打ち合わせという名目で時間を設けてはませんが、その日の流れや引継ぎ等確認するように務めています。役割分担については、その日その日で異なることがあり分かりづらい部分もあるかもしれませんが、チームで連携していけるよう、しっかりとコミュニケーションを図り支援していきたいと思っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援終了後と決めることはせず、気付いた時点での情報共有や、振り返りは日々意識しておこなっています。	送迎や支援の兼ね合いで終了時間が異なることから、その日の終了後に全員で振り返りを行うことはなかなか難しいのが現状です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		約半年に1回(前期5~6月、後期10~11月)に個別面談を行い、個別支援計画・目標の振り返りと見直しをおこなっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5				
関係機関や保護者との連	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2		積極的に連携を図ることはできていませんが、利用児童・ご家庭にとって必要と感じた場合はしっかりと連携していきたいと考えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	担当スタッフを決めその方を中心に、対応しています。また担当スタッフに限らず、責任感をもって対応してくれるスタッフが多くいるので、とても助かっています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3		こちらについても現在は、積極的に連携を図ることはしておりませんが、利用児童・ご家庭にとって必要と感じた場合はしっかりと連携していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	卒業された児童についての記録や支援計画書はすぐに破棄するのではなく、一定期間保存し、必要になった際、情報提供に協力できるようにしています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		現場スタッフから必要という要望が上がった場合、また必要と判断した際には、スーパーバイズや助言を受ける機会を検討していきたいと思っています。



携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	3	公園で遊ぶ際には、ハンデキャップの有無関係なく、一緒に遊ぶ・関わることを大切にしている(してくれている)と感じています。	放課後児童クラブや児童館の利用については、利用チャレンジすることもあります。子ども達の特性や集団での活動といった部分から積極的におこなえずにいるのが現状です。放課後クラブや児童館、市の複合施設などの利用には、施設側の理解と協力が必要不可欠だと感じています。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		参加できていません。 検討していきたいと思います。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		事業所からご家族に対しての支援プログラム提供の機会は設けていません。情報提供に関しては、提供できる情報がある場合は積極的にお伝えさせていただきたいと考えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		その都度、子どもたちや保護者様から受け取った意向は、引継ぎノートに記載し、確認・共有できるよう努めています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		連絡帳だけでなく、メールや電話も併用し細やかに対応できるよう努めています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	4		以前より課題の1つであった保護者同士が交流する機会については、2024年にアンケート調査を実施しています。保護者の皆様がどういったものを求めているのかをしっかりと把握し、2025年度に実現していけるよう取り組んでいきたいと考えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
保護者への説明等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		「くじらっこ通信」を約2か月に1回のペースで発行し、活動や行事、子どもたちの様子を発信しています。また様子が分かりやすいように写真の掲載を多くしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		活動展や会報、写真掲載等必要に応じてその都度、同意書を配布し確認しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2		コロナウイルス感染症の流行前は、年に1回、事業所を開放し地域住民の方や他事業所の方たちも参加できるお祭りを開催していました。コロナウイルス感染症も終息しましたので、改めて地域に開かれた事業所になっていくために何ができるのかを、スタッフみんなで検討していきたいと考えます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	各種マニュアルについては策定されており、取り組んだことについては、くじらっこ通信にて保護者様方にお知らせさせていただいています。	訓練については、足りていないと感じているスタッフもいるかもしれないので、会議等でしっかり議論し取り組んでいきたいと考えます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	利用者情報一覧表を作成し、そこに食物アレルギーについても掲載しています。実際に医師からの指示を受けることはできていませんが、医師から保護者様に伝えられた情報を、保護者様からいただき、一覧表にまとめすぐ確認できるようにしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	夏には熱中症対策、冬には感染症対策と必要に応じて勉強会を開催しています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		安全については、とても大切な項目だと考えています。ご家族への周知の仕方など、もっとよりよくなっていくために、スタッフみんなで検討し実践していけたらと思います。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修や勉強会はもちろんですが、常に現場の声に耳を傾け、一人で抱え込ませてしまうことがないように「話す」ことを大切にしています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			